

令和5年度第1回久留米市子ども・子育て会議

日時：令和5年8月2日（水） 13：45

場所：久留米職員会館メルクス 3階 ホール

出席者：高田委員、古賀委員、西野委員、國武委員、菊池委員、関委員、下川委員、
村井委員、内田委員、山下委員、足立氏（宮里委員代理）、舟越氏（早川委員代理）
遠山氏（荻野委員代理）、今村氏（笠野委員代理） 14名

欠席者：椎山委員、中山委員 2名

傍聴者：なし

次第：1. 開会

2. 議事（1）第2期くるめ子どもの笑顔プランの令和4年度実績について

①基本目標に関する現状報告及び今後の課題・方向性

②就学前児童・小学生児童の人口推計と実績

③令和4年度教育・保育事業実施状況

④令和4年度地域子ども・子育て支援事業実施状況

（2）今後の久留米市子ども・子育て会議について

3. その他

4. 閉会

1 開会

会長、副会長欠席に伴う会議議長選出 内田委員を議長に選出

久留米市子ども・子育て会議条例第8条第2項の規定により、会議の成立

2 議事

（1）第2期くるめ子どもの笑顔プランの令和4年度実績について

①基本目標に関する現状報告及び今後の課題・方向性

<資料1「基本目標に関する現状報告及び今後の課題・方向性」について事務局説明>

○委員

離婚後のひとり親の養育費の取り決めなどの相談会を行ったとあるが、なかなか個人的なことで、例えば両親で取り決めをしてもそれを履行できていない。そういうことが沢山あるのではないかと思うが、改善した例があれば聞かせてほしい。

○事務局

養育費の取り決めにおけるセミナー・個別相談会は、昨年度初めて開催しており、講師に元家庭裁判所の調査官をお招きし、セミナー・相談会を開催した。それ以外にも、養育

費確保支援事業として、公正証書の作成に係る費用の補助等を行っており、履行がはかられるよう努めている。相談会の中でも、大変参考になったという好意的な意見も多くあり、そういった手続きをしっかりと組むことによって、払ってもらえようになったという声はある。

○委員

S S Wは現在久留米市に何人いるのか。

毎日いるわけではないから、相談したいときに相談できないという声も聞くので、現在の人数で対応がちゃんとできているのか。せっかく相談したいなと思った時に相談できないと、結局は取りこぼしというか、もうやっぱり行くのを止めようみたいな事になると思う。

○事務局

令和5年度、S S Wは学校教育課に7名配置している状況。年度を追うごとに少しずつ配置人数は増えてきているが、困りごとを抱えた子ども、複雑な家庭が増えてきている。

困りごとは様々あり、例えば、喫緊、私たちが課題だと思っていることとしては、不登校の問題がある。令和3年度512名の不登校児童生徒数が、令和4年度700人に増えてきている。コロナ禍の状況というのもあり、その不登校の要因は、当然、子どもだけではなく、家庭環境も含めたといったところもあると思っている。現状、不登校対応も含めまして、外部の委員会を作り、困りごとによりきめ細かな対応をするような助言を聞きながら、今後もソーシャルワーカーの拡充にも取り組んでいきたい。現に、モデル校区で、S S Wは学校教育課に配置して学校に入っているが、小学校に週に2日間常駐するというような取組をしている。本取組のメリットは、S S Wがその現場にいるため、日頃から子どもを見ることができ、また、ほっとルームという取組だが、昼休みの時間帯等に、子どもが気軽に立ち寄って相談ができる、そういった取組もモデル的にやっている。こういった取組を拡大させていきながら、よりきめ細かな対応を行っていきたい。

○委員

ぜひ、全小学校校区に理想は週に2日はS S Wにいてほしい。できれば、各小学校に1人ずつ居て欲しいというのが、私の個人的な意見。少しずつ構わないので、相談できる場所、子ども自身が自分で困っていると言える場所が増えていく事が大事だと思うので、ぜひ、今後も頑張ってもらいたい。また、S S Wの待遇が正規の職員ではなく、3年の任期付き等の人ばかりなので、実際3年ぐらいかかって、やっと一つの家庭、何件かが助かっていくくらいなので、ぜひ、任期付きなどではなく、正規の雇用でソーシャルワーカーの人を配置していただけると。学校の先生たちもすごく疲弊しているので、そちらとの係に

もなるのではないかなと思う。

②就学前児童・小学生児童の人口推計と実績

<資料2「就学前児童・小学生児童の人口推計と実績」について事務局説明>
質疑等なし

③令和4年度教育・保育事業実施状況

<資料3「教育・保育の量の見込みと対応策」について事務局説明>

○委員

保育園に入れたいと見学にきた時点で埋まってしまって、特に12月以降に出産したお子さんとかは、ほぼ入れないという事が多い。この数字以上に見学に行った時点で、年度内の入所は厳しいかもと言われて、申込みすらされていない方が結構隠れているのではないかなと思う。0歳児の途中入所で困っている方というのは、まだまだ楽観できるものではない。保育園、認定保育園の仕組上、0歳児が4月時点では少なかったけど、12月まで0歳を入れず、困った方のために空けておくというのが、どうしても運営上難しい。そういった課題への対策を一緒に講じてほしい。

○事務局

年度途中の0歳児の受け入れ態勢の確保は難しいと思っている。基本的に我々市が目指す姿としては、出来る限り年度途中のニーズ量を救っていきたい、入れるようにしていきたい。

○委員

利用定員の適正化という所で、物価高、それに賃金が上がっていない状況が続いていて、働く者の代表として言えるのが、物価高で女性の中で働きたいけれど、なかなか保育園に入れない、この状況を変えないと、2人目3人目をつくるのが、ちょっと問題になり、どんどん少子化になってくると思う。であるから、利用定員の適正化というのは、しっかり確認して、今後進めていただきたい。共働き世帯が増えて、やはり、女性も働ける環境といった面では、こういう保育が重要となってくるので、ぜひ、お願いしたい。

○事務局

しっかり取り組んでいきたい。

④令和4年度地域子ども・子育て支援事業実施状況

<資料4「令和4年度地域子ども・子育て支援事業実施状況」について事務局説明>
質疑等なし

(2) 今後の久留米市子ども・子育て会議について

<資料5「今後の久留米市 子ども・子育て会議について」事務局説明>
質疑等なし

3 その他

特になし

4 閉会